

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19271

研究課題名（和文）リアルワールドデータを活用した居宅介護におけるケアマネジメントの評価

研究課題名（英文）Evaluation of care management on home-based long-term care using real world data

研究代表者

伊藤 沙紀子 (Itoh, Sakiko)

大阪大学・大学院医学系研究科・特任講師（常勤）

研究者番号：80734152

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：介護保険制度における居宅介護支援サービス（ケアマネジメント）は、高齢者が自立した生活を継続できるように支援し、要介護度の重度化を防ぐことを目的としている。本研究では大規模データを突合し、特定要件を満たすケアマネジメントは、一般のケアマネジメントと比較して、要介護度の悪化リスクを有意に低減させるのかを検証した。要介護度が中程度の居宅介護サービス受給者において、要介護度の悪化リスクに有意差は認められなかった。ケアプランに組み込まれた介護サービスの種類については、訪問介護と地域密着型通所介護の利用率において有意な差が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では大規模データを突合し、特定要件を満たすケアマネジメントは、一般のケアマネジメントと比較して、要介護度の悪化リスクを有意に低減させるのかを検証した。要介護度が中程度の居宅介護サービス受給者において、要介護度の悪化リスクに有意差は認められなかった。ケアプランに組み込まれた介護サービスの種類については、訪問介護と地域密着型通所介護の利用率において有意な差が認められた。

今後、居宅介護サービスの利用者が増加し、ケアマネジメントの重要性が一層高まる。リアルワールドデータを活用し、居宅介護支援サービスのアウトカムを評価した本研究成果は、科学的根拠に基づいた介護の実現に寄与する。

研究成果の概要（英文）：We aimed to investigate the association between care management types (advanced vs. conventional) and progression in the care needs of recipients with moderate levels of home-based, long-term care needs. Moreover, we examined the differences in care services offered in care plans between care management types.

This study showed that advanced care management was not significantly associated with slowing down the progression in care-need levels among recipients of home-based long-term care at moderate levels of care needs in a suburban municipality of Japan. Regarding the use of care services, home-help services and community-based day care services were significantly lower in advanced care management than in conventional care management. The findings might provide insights regarding the differences in the priority of each service between the advanced and conventional care management.

研究分野：在宅ケア

キーワード：ケアマネジメント 居宅介護支援サービス 介護支援専門員 介護 在宅ケア

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会は日本が直面する最重要課題であり、2007年に超高齢社会に突入してから、既に10年以上が経過した。現在、65歳以上の人口割合を示す高齢化率は28.1%に達し、日本の高齢化率は世界で最も高い [1]。団塊の世代が75歳に到達し、介護ニーズの増大が懸念される2025年問題を目前に控え、高齢者のニーズにあった介護サービスを効果的かつ効率的に提供するために、ケアマネジメントの質の向上が喫緊の課題となっている。介護保険制度の制定時に介護支援専門員(ケアマネジャー)が創設され、介護支援専門員が高齢者の自立支援に資するケアマネジメントを実施する。ケアマネジメントでは、高齢者の現状や希望を把握し、個々の高齢者に適した介護サービスの利用を支援する。2006年には介護支援専門員の上級資格である主任介護支援専門員(実務経験5年以上)が新設され、5年以上の実務経験で培った知識や技術をケアマネジメントに活かすことが期待されている [2,3]。

さらに2006年には、質の高いケアマネジメントを実施している事業所を優遇するために、主任介護支援専門員を有する等の特定要件を満たした居宅介護支援事業所(特定事業所)に対して、300点から500点の介護報酬加算が新設された [4]。しかしながら、主任介護支援専門員の実務経験がケアマネジメントにどの程度反映されるのかは明らかで無く、特定事業所のケアマネジメントに対する介護報酬加算の科学的根拠は明確ではない。科学的根拠に基づいた介護政策を促進するためには、介護報酬加算の有用性を検証する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では医療・介護レセプトデータ等を用いて、特定要件を満たした居宅介護支援事業所(特定事業所)のケアマネジメントに対する介護報酬加算の有用性を検証する。具体的には、大規模医療介護データ(介護レセプト、医科レセプト、認定調査票データ)を用いて後ろ向きコホート研究を実施し、特定事業所のケアマネジメントは、一般事業所のケアマネジメントと比較して、高齢者の要介護度悪化リスクが有意に低減するのかを検証する。

近年、医療介護データに関する研究環境は大きく変化した。医療介護データの解析基盤が構築され、医療介護に関する全国の実臨床データ(実臨床データ)の利活用が可能になった。これらリアルワールドデータの一つである介護レセプト等を用いることで、居宅介護支援サービス(ケアマネジメント)の現状を把握することができ、これまで困難であったケアマネジメントに対する介護報酬加算の有用性の検証が可能になった。

具体的には、ドナベディアンモデルの枠組みに沿ってケアマネジメントの質を評価する。ドナベディアンモデルとは、1988年に米国のアベディス・ドナベディアンが提唱した医療の質を評価する枠組みである [6,7]。本モデルは医療の質を構造(Structure)、過程(Process)、アウトカム(Outcome)の3側面から評価する [6,7]。構造的側面とは物的および人的資源、過程的側面とはケア提供者の態度や行動、結果的側面とはケア提供によって患者にもたらされた健康変化である [6,7]。本枠組みを用いることで、ケアマネジメントの体制や支援内容、利用者アウトカムなど様々な側面で構成されるケアマネジメント全体を俯瞰的に評価できる。

具体的には第一に、主任介護支援専門員を有する等の特定要件を満たした居宅介護支援事業所のケアマネジメントは、一般の居宅介護支援事業所のケアマネジメントと比較して、高齢者の要介護度悪化リスクが有意に低減するのかを検証する。第二に、主任介護支援専門員を有する等の特定要件を満たした居宅介護支援事業所のケアプランと一般の居宅介護支援事業所のケアプランにおいて、ケアプランに位置づけられた介護サービスの種類を比較する。

3. 研究の方法

介護給付費等実態調査データや医療介護レセプト等の大規模データを用いて、ケアマネジメントのアウトカム評価を実施した。具体的には、介護報酬加算の要件を満たすケアマネジメントは、一般のケアマネジメントと比較して、要介護度の悪化リスクを有意に低減させるのかを検証した。

具体的には、自治体から介護レセ・医科レセ・認定調査票データを取得し、後ろ向き観察研究を実施した。観察期間は2015年5月から2019年3月とした。主要アウトカムは、要介護度の重度化とした。まず第一に、高齢者の特性の違いを調整するために、傾向スコアマッチングを実施した。第二に、生存時間分析(無増悪時間分析)を行った。第三に、

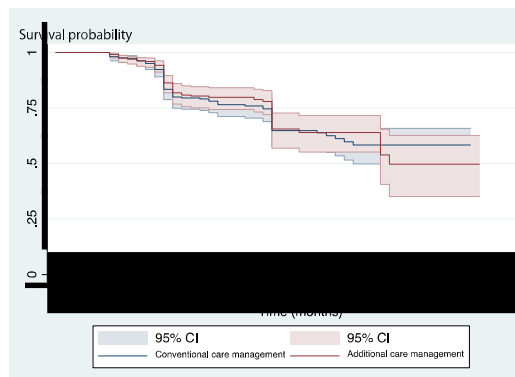


図1 カプランマイヤー曲線
(イベントは要介護度の重度化)

特定ケアマネジメント群と一般的なケアマネジメント群において、ケアプランに組み込まれた介護サービスの種類を比較した。

4. 研究成果

1,010 人の介護保険サービス受給者のうち、傾向スコアでマッチングさせた 856 人を特定ケアマネジメント群または一般的なケアマネジメント群の受給者とした。特定ケアマネジメントを受けた群と一般的なケアマネジメントを受けた群の 4 年累積無増悪率は、それぞれ 82.2%と 78.5%であった ($p = .69$)。特定ケアマネジメントを受けた群と一般的なケアマネジメントを受けた群において、訪問介護サービスの利用率はそれぞれ 17.1%と 23.8% ($p < .05$)。地域密着型通所介護サービスの利用率が 4.0%と 8.2% ($p < .05$)であった。

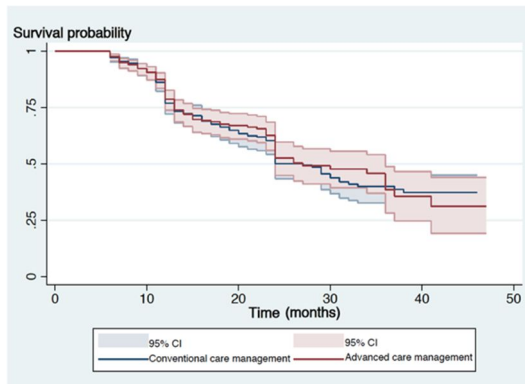


図 2 カプランマイヤー曲線

(イベントは要介護度の重度化または死亡)

本研究では大規模データを突合し、特定要件を満たすケアマネジメントは、一般のケアマネジメントと比較して、要介護度の悪化リスクを有意に低減させるのかを検証した。要介護度が中程度の居宅介護サービス受給者において、要介護度の悪化リスクに有意差は認められなかった。ケアプランに組み込まれた介護サービスの種類については、訪問介護と地域密着型通所介護の利用率において有意な差が認められた。

今後、居宅介護サービスの利用者が増加し、ケアマネジメントの重要性が一層高まる。リアルワールドデータを活用し、居宅介護支援サービスのアウトカムを評価した本研究成果は、科学的根拠に基づいた介護の実現に寄与する。

表 1 ケアプランに位置づけられた介護サービスの種類

Care services offered in home-based, long-term care	Care management type		p value
	Advanced care management (n=428)	Conventional care management (n=428)	
Home-visit services, n (%)			
Home help	73 (17.1)	102 (23.8)	0.01
Bathing	8 (1.9)	8 (1.9)	1.00
Nurse visits	60 (14.0)	43 (10.1)	0.07
Home rehabilitation	27 (6.3)	30 (7.0)	0.68
Day care services, n (%)			
Day care	237 (55.4)	231 (54.0)	0.68
Day care with rehabilitation	67 (15.7)	74 (17.3)	0.52
Short-term residential services, n (%)			
Short-term respite care	145 (33.9)	136 (31.8)	0.51
Short-term healthcare	15 (3.5)	18 (4.2)	0.59
Other, n (%)			
Home care management and guidance (by physician)	34 (7.9)	48 (11.2)	0.10
Rental of assistive devices	277 (64.7)	269 (62.9)	0.57
Community-based day care*	17 (4.0)	35 (8.2)	0.01

< 引用・参考文献 >

- 1) 厚生労働省. 令和元年版高齢社会白書. https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/gaiyou/01pdf_indexg.html (2023 年 5 月 15 日アクセス)
- 2) 厚生労働省. 社保審 - 介護給付費分科会第 142 回 (H29.7.5) 参考資料 3 居宅介護支援. https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000170287.pdf (2023 年 5 月 15 日アクセス)
- 3) 吉田輝美. 介護支援専門員と主任介護支援専門員の支援関係の実態と課題. 厚生指標 2013;60(2):30-37.
- 4) 厚生労働省. 平成 18 年度介護報酬等の改定について. https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/10/dl/s1003-11h_0002.pdf (2023 年 5 月 15 日アクセス)
- 5) 厚生労働省. NDB、介護DB等の役割と解析基盤について. <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12401000-Hokenkyoku-Soumuka/0000206673.pdf> (2023 年 5 月 15 日アクセス)
- 6) Donabedian A. The quality of care. How can it be assessed? JAMA. 1988;260(12):1743-1748.
- 7) Public Health Action Support Team (PHAST). Principles underlying the development of clinical guidelines, clinical effectiveness and quality standards, and their application in health and social care. <https://www.healthknowledge.org.uk/content/principles-underlying-development-clinicalguidelines-clinical-effectiveness-and-quality>. (2023 年 5 月 15 日アクセス)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 伊藤沙紀子
2. 発表標題 リアルワールドデータ（RWD）を活用した介護政策の評価
3. 学会等名 第25回日本看護管理学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤沙紀子
2. 発表標題 介護データベース解析における RQ の組み立てと解析の実際
3. 学会等名 第27回日本在宅ケア学会学術集会政策提言検討委員会セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakiko Itoh, Tomoko Ito, Jun Komiyama, Naoaki Kuroda, Kana Kodama, Xi Vivien Wu, Toshihiro Takeda, Nanako Tamiya
2. 発表標題 Comparison of Home-based Long-term Care Services Offered in Care Plans between Care Management Types
3. 学会等名 12th Biennial Conference of the Asia Pacific Association for Medical Informatics (APAMI 2022)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
シンガポール	National University of Singapore			